

「河川改修にたどる湊での暮らし」 御原橋から湊港へ向かう方向で並んでいます。



写真1 御原橋 この橋を渡って湊地区へ

御原橋。西淡地区の中心部にかかる橋。大日川、倭文川、柿木谷川など複数の川が合わさり、三原川となる合流地点となる所にかかっている。人々はこの橋を「瓦の橋」とも呼ぶ。橋の欄干や街頭には淡路島の名産である瓦が美しく施されている。複数の川が合流することから、かつてこの地区は洪水などの水害に悩まされていた。



写真2 御原橋の欄干に立つ瓦の街頭

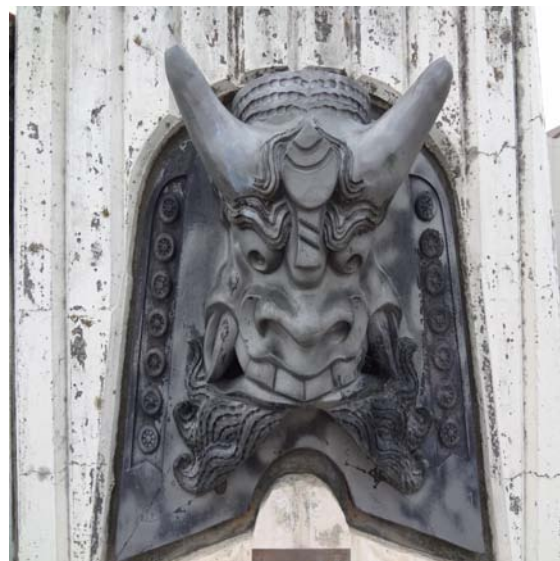


写真3 御原橋の装飾「鬼瓦」



写真 4 御原橋から中洲の土砂を眺める

御原橋から三原川を撮影したもの。写真中央に見える中洲には土砂が堆積しているのがわかる。これは三原川周辺の土木工事で用いられる土砂である。写真左に「青い水門」が小さく見える。西淡地区、湊地区にかけて、このような水門が至る所にある。これらの水門は、この地区の治水対策の目玉として設置されたものである。



写真 5 中洲の反対側には河口が見える



写真6 御原橋近くにある「水門」



写真7 上の写真の水門に近づくと真新しさが際立つ。

三原川の改修工事で西淡地区の随所に設けられた「青い水門」。  
ブルーに塗装された水門の設備は比較的、新しく、ゴミや錆などもない。普段は水門が閉じられているが、大雨などによって、山側から大量の水が流れ込んできたときは水門を開けて、海の方へと水を放出する。



写真 8 三原川の改修工事以前からある古い水門

西淡庁舎付近にある水門。前の水門が鉄製できれいに塗装されていたのに対し、こちらはコンクリート製で、かなり古いものと見られる。川の水も淀んでいる。川の上に浮かぶ2艘の船は水質を調査したり、水面に浮かぶゴミを拾うときなどに使う。



写真 9 古い水門を背面から

◆湊地区へ到着◆



写真 10 湊活性化センター



写真 11 夕方は地元のお母さんたちの卓球クラブに

川沿いにある「湊活性化センター」。町の公民館のような役割をもつ。夕方には、地元のお母さんたちが卓球をし、汗を流す。川が変わっていくとともに、人々の生活も「活性化」しているのだろうか。



写真 12 湊地区の住宅地の中にも新しい水門が見える



写真 13 普段、水門は閉じられている。

これは湊地区の住宅街の中にある水門。西淡庁舎付近の水門と比べるとかなり海に近い。住宅からかなり近い位置に川があり、水門も住宅地のまっただ中に設置されていることが分かる。このすぐ近くに住むさつき寿司のご主人来間正明さんのお話によると、普段から水門を閉じているのは、台風や津波のときに海水が川に逆流し川が増水することがよくあったからだそうだ。



写真 14 改修工事によって川縁はコンクリートで固められた。

さらに同じ水門を少し離れたところから撮影したものである。見ての通り現在の川は、そのほとんどが川縁をコンクリートで覆われている。来間さんは、このコンクリートこそがより洪水の起きやすい仕組みになったという。改修される前の川は石や土で川壁を作っていたし、川自体も曲がりくねっていたので、水の流れるスピードは遅かったそうだ。しかし、川壁がコンクリートでまっすぐにされたことで、水のスピードが増し、すぐに上流の水が下流であるこの写真の地区に集まるようになったというのだ。



この水門は前の水門から少し海方面にいったところにある水門で、この防波堤(防潮堤)の向こうは海である。

この地区は、台風、洪水時の海からの逆流を防ぐために、水門を閉じると同時に、川壁がコンクリートになったことで山からの水が早く流れてくるようになったという海、山に挟まれた両方からの問題を抱えている。

写真 15 三原川と海をつなぐ水門



写真 16 兵庫県湊港排水機場

台風や洪水時に「海からも山からも」水攻めにあうこの湊の地区は、最悪の事態に備えてどのような対策をうっているのだろうか。それがこの写真である。

この写真ん中央に移る白い建物は「兵庫県湊港排水機場」である。台風、洪水などの災害時には、海からの潮の逆流があるため、海に面した水門を開けることはできない。しかし、それでは山から下りてきた大量の水を海に放出することができない。そこでこの建物からポンプを増水した川に差し込み、水を吸い上げて、一時建物内で水を留置させた後、この建物から直接水を海に捨てるシステムである。動力はエンジンで、背後に ENEOS のタンクも見える。湊の災害対策の最終兵器である。



◆湊港に到着◆



写真 17 閑散とした湊港

湊港の風景。人気はなく閑散としている。漁に使ったのであろう道具が、潮風を受けて錆を作り、至る所に転がっている。



写真 18 閑散とした湊港②



写真 19 閑散とした湊港③



捨てられた軽トラック。その奥には錆きった鉄くずが散乱している。

写真 20 湊港で見つけた放置トラック

上のトラックのフロントガラス部分。おそらくもう誰も使用していないだろう。



写真 21 放置トラックのフロントガラス



写真 22 湊港で網の整備を一人寂しく行う。



写真 23 湊港でしらすを干す



写真 24 湊港にあるしらす加工工場での作業風景

シラス加工工場での作業。高齢のおばあさんが手慣れた手つきで作業を進める。それを立って見ている外国人労働者。



加工されたシラスは、ビニール袋につめられ、淡路島内のみで流通する。

写真 25 加工済みのしらす



【完】